様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月 10 日

１．職名・氏名　教授・吉浦康寿

２．学位　博士　、専門分野　魚類生理学　、授与機関　東京大学　、授与年　1997

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 一年次：生物学 II（2 単位：分担 5 コマ）、フィールド演習（2 単位：分担 5 コマ） 二年次：水族発生工学（2 単位：15 コマ）、生物学実験（2 単位：分担 4 コマ）、養殖学概論（2 単位：分担 1 コマ）、分子生物学（2 単位：分担 4 コマ） 三年次：遺伝子育種学実験（2 単位：15 コマ）、養殖学実習 II（2 単位：分担 9 コマ）
②　内容・ねらい 今後の専門教育に必要な生物学の基礎を習得するとともに、これらを理解した上で、養殖学、水族発生工学の基礎と応用への理解度を深める。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 パワーポイントを活用したイラストや動画を多く取り入れ、学生が理解しやすい授業を展開しました。また、要点を簡潔にまとめた配布資料を手元に配布し、必要に応じて授業後に学生が理解を深められるよう、レポート課題を出しました。実験では、地元の天然メダカを採取して遺伝学の実験に利用するとともに、遺伝子交雑による遺伝子汚染を調査しました。この取り組みを通じて、地域のメダカの保護についても学べるよう工夫しました。
(2)その他の教育活動
内容

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【　本】

②学術論文（査読あり）

1. Efficient production of donor-derived tiger puffer gametes from grass puffer recipient with germ cell deficiency by CRISPR-Cas9 mediated knockout of dead end 1. Hiroyuki Yoshikawa, Yasuko Ino, Kenta Kishimoto, Masato Kinoshita, Yasutoshi Yoshiura Aquaculture 595 741626-741626 2025 年 1 月

【1 本】

③その他論文（査読なし）

【　本】

④　学会発表等

1. Imaris を用いたミオスタチン変異トラフグの 3D 画像による表現型解析　黒柳美和・甲本真也・成田篤史・二川伸彦・八杉公基・斎田美佐子・亀井保博・吉浦康寿 2024 年日本水産学会秋季大会　2024 年 9 月

2. クサフグ不妊アリル標識系統のトラフグ代理親魚技術への利用 吉川廣幸・井野靖子・岸本謙太・木下政人・吉浦康寿　2024 年日本水産学会秋季大会　2024 年 9 月

【２本】

⑤　その他の公表実績

学会紀要

【　本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

”白子も食べられる”受精を標的とした養殖魚の新規不妊化技術の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2024 年 4 月 - 2027 年 3 月
吉浦康寿（研究代表）、亀井保博、吉川廣幸

多重反射による空中ディスプレイの薄型化と水中 CAVE への応用～魚に映像を見せる～
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(S) 2020 年 8 月 - 2025 年 3 月
山本裕紹（研究代表）、吉浦康寿、大谷幸利、八杉公基、陶山史朗、伊藤篤、石川智治

「イノベーション創出強化研究推進事業」【開発研究ステージ】

令和４年度～令和８年度（5 年間）
研究統括　細谷将（東京大学)、参画機関　長崎水試、福井県立大学、マルハニチロ

リージョナルフィッシュ株式会社との共同研究「養殖魚の不妊化」
令和４年８月～令和６年９月

リージョナルフィッシュ株式会社との共同研究「二枚貝の突然変異誘発法の開発」
令和５年８月～令和７年３月

2024 年度 基礎生物学研究所 個別共同利用研究（継続課題）
「受精を標的とした魚類の不妊化技術に関する基礎的研究」
2022 年 10 月～2025 年３月

【学内】

(3)特許等取得

(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
オープンキャンパスの運営、福井県立大学公開講座の講演
(4)その他、自発的活動など